

NEWS 01 活気に満ちた学生生活を取り戻すために コロナ禍における本学の取り組み

新型コロナウイルス新規感染者数の減少傾向が続いている状況を踏まえ、11月1日より本学の新型コロナウイルス感染拡大防止のための東洋大学行動指針を「レベル1（自粛要請・制限等は出ていないが、感染への注意が必要な状態）」に引き下げました。

これに伴い、授業・教育活動における対面授業の比率を高め、課外活動についても段階的に再開しました。本学では今後も感染状況を鑑みながら、安心して学べる環境を整えていきます。



感染防止に留意した対面授業の風景

新型コロナワクチン大学拠点接種を実施

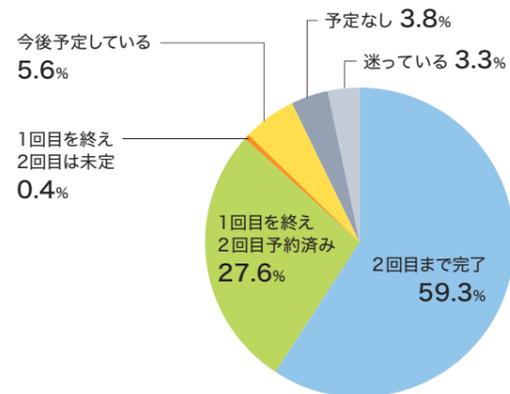
本学では政府発表方針に沿い、早期からワクチン大学拠点接種の実現に向けて検討を進めておりました。国内でのワクチン配送の遅延から接種時期の延期・会場規模の縮小はありましたが、8月20日より予約を受け付け、9月2日より白山・川越キャンパスにて1回目の接種を開始しました。10月18日までに、学生・教職員・本学関係者や全教職員の同居家族の方を対象に2回のワクチン接種が完了しました。



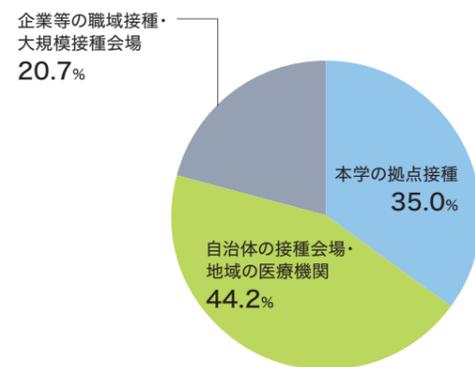
在学生のワクチン接種状況

秋学期の授業計画立案の参考とするため、10月上旬に在学生（学部・大学院）を対象とした新型コロナワクチン接種状況調査をWebアンケートにて実施しました。調査では、回答した学生の92.9%が「接種済み」または「接種予定」（2回目は未定を含む）であると回答。このうち約6割の学生が調査時点で2回目の接種まで完了し、3割近い学生が2回目の接種予約まで済んでいることがわかりました。また、接種をした中で本学の大学拠点接種を利用した学生は35%となりました。

新型コロナワクチンの接種状況



ワクチン接種した会場



※小数第二位を四捨五入

(総回答数)11,219件 (回答率)36.4% (回答期間)2021年10月1日～10日

NEWS 02 創立者 井上円了の志を受け継ぎ、 哲学に想いを馳せる哲学堂祭を挙

2021年11月6日に、2021年度哲学堂祭を東京都中野区の蓮華寺と哲学堂公園にて挙りました。蓮華寺での墓前祭で、読経や参列者による焼香、矢口悦子学長による円了の遺した唱念「南無絶対無限尊」の三唱などを行った後、哲学堂公園内にある四聖堂にて、本学の創立者 井上円了の曾孫である井上進氏による遺文朗読が行われました。その後、宇宙館での記念講演では、『ラグビーの哲学—論語に学ぶONE TEAMの作り方』の著者で井上円了哲学センター副センター長の理工学部吉田善一教授が「論語とラグビー」と題し、孔子が唱えた論語とラグビーにおけるチームプレー思想の共通点などを講演しました。円了が精神修養の場として創設した哲学堂公園にて、改めて哲学を考える時間となりました。



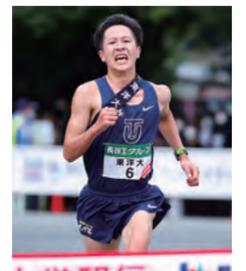
吉田善一教授による「論語とラグビー」講演の様子

哲学堂祭とは毎年11月の第1土曜日に、哲学の普及を願った本学の創立者井上円了の遺言に基づき執り行います。記念講演では、哲学堂公園の四聖堂に祀られる哲学の四聖（釈迦、孔子、ソクラテス、カント）から1人をテーマに毎年講演を行っています。

NEWS 03 陸上競技部 長距離部門が、 学生三大駅伝「出雲駅伝」「全日本大学駅伝」に出場

2021年10月10日、陸上競技部 長距離部門が学生三大駅伝の初戦となる第33回出雲全日本大学選抜駅伝競走に出場しました。コロナ禍の影響で2年ぶりとなる出雲路を全20チームで駆け抜け、4区九嶋恵舜選手（経済学部2年）が区間2位、5区石田洗介選手（総合情報学部1年）が区間賞の走りを見せ2位に躍り出ると、最後は第3位でフィニッシュ。1・2年生が躍動した大会となりました。

11月7日に開催された秩父宮賜杯第53回全日本大学駅伝対校選手権大会では、4区を走った石田洗介選手が出雲駅伝に続く好走で2大会連続の区間賞を獲得。最終順位は10位となりましたが、全選手が「その1秒をけずりだせ」を体現し、最後まで諦めない懸命な走りを見せてくれました。8位までに与えられるシード権に52秒届かず2008年以降13年連続で守ってきたシード権を逃す結果となりましたが、酒井俊幸監督は「チーム全員が危機感を持って箱根駅伝に向けて立て直します」と話しました。選手たち自らが考えた今年度のスローガン「鉄紺の証明」。本学のスクールカラーである鉄紺色の襷を繋ぐ選手たちの強さを証明する走りに期待が集まります。



全日本駅伝8区 宮下選手



出雲駅伝5区 石田選手

▶ 出雲全日本大学選抜駅伝競走

1位	東京国際大学	2:12:10
2位	青山学院大学	2:14:07
3位	東洋大学	2:14:13

▶ 全日本大学駅伝対校選手権大会

1位	駒沢大学	5:12:58
2位	青山学院大学	5:13:06
3位	順天堂大学	5:14:20
10位	東洋大学	5:17:58

10月～11月に「TOYO SDGs Weeks」に多彩な企画を実施 SDGsを推進する49名の「SDGsアンバサダー」が誕生

NEWS 04

本学は「学校法人東洋大学SDGs行動憲章」を制定し、SDGsの達成に向けて包括的に取り組んでいます。その一環として、10月1日～11月30日の2ヶ月間を「TOYO SDGs Weeks」とし、本学の学生・教職員、地域の方々等を対象としたSDGsに関連するさまざまなプログラムを実施しました。シンポジウムやコンテスト、ワークショップなどの多様な機会の提供により、SDGsを“自分ごと”として捉えられるよう理解の促進を図りました。

また、学内のSDGs活動の一層の活性化、充実および発展を図るために、学生個人または学生団体に対して「東洋大学SDGsアンバサダー」の称号を付与する制度を設け、11月2日に学生49名が制度初のアンバサダーに認定されました。今後は本学におけるSDGs活動の普及推進を目的とした企画実施や情報発信など主体的に活動していきます。

TOYO SDGs Weeks実施プログラム一覧 (2021年11月12日時点)

<シンポジウム>

東洋大学・東京東信用金庫 第3回共催シンポジウム
「TOKYOイーストの“未来志向”と地域中小企業のDX・新事業推進」

国際共生社会研究センター 出版記念シンポジウム
「パンデミック時代のSDGsと国際貢献—2030年のゴールに向けて—」

<講座>

ノルウェー大使特別講演会

SDGsに関わる環境教育 (Environmental Education toward SDGs)

「好き」を通じてフクシを変える、社会を変える

食品ロス削減と保存料—SDGs目標12の推進—

子どもの貧困への挑戦
—社会的養護の現場での取り組みから考える—

知的障害特別支援学校におけるICTの利活用：
読む、聞く、話す、書くへの支援

「企業と人権」～SDGsと人権について学ぼう～

「防災の思想」～避難情報廃止論と防災プラグマティズム～

生命科学部コミュニティ活性化のための学生ファシリテーター
養成プログラム「身近なところから始めるSDGs」

SDGsカードゲームを通じてSDGs×人権を学ぶ

<ワークショップ>

東洋大生がワークショップで考える初めてのSDGs

ティキャンパで遊ぼう会 (里親家庭とのティキャンパ)

オンラインTGLキャンパ「SDGsの目標達成について考える」

<コンテスト>

SDGsコンテスト (ポスター部門/川柳部門/動画部門)

第1回 Toyo University Eco Projects (TUEP) デザインコンテスト

<その他>

食料品支援プロジェクト Hands to Hands 2021

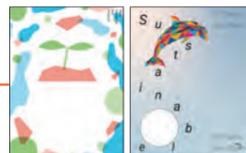
東京2020オリンピック・パラリンピック
学生ボランティア報告会

人間科学総合研究所「モンゴルにおける障がい児
インクルーシブ地域づくり連続セミナー 2021」



講演後にノルウェー大使に質問する学生

10月27日、法学部ではノルウェー王国大使 インガ・M・W・ニーハマル閣下をお招きし、学生のグローバルな視野を育てる機会として外交政策について特別講演会を行いました。例年、国際的な視野・知識・経験を持った学生を育成するために、英語で学ぶ平和学研修としてノルウェーに渡航していましたが、コロナ禍により中止せざるを得ませんでした。そうした状況のなか、ノルウェーの平和構築や紛争解決、国際援助について国内でも学ぶ貴重な機会となりました。



外装紙2部門の大賞作品
「Inside Nature (左)」「脱プラとイルカ (右)」

学生団体「Toyo University Eco Projects」が脱プラスチックを目的として、大学生協で販売されている商品の外装 (パッケージ) および紙のマスクケースのデザインコンテストを実施しました。「SDGsを身近に感じるデザイン」を今回のテーマとしたコンテストには103件の応募があり、10月31日の大学祭で入賞者が発表。外装紙部門では、本学の学生2名が大賞に輝きました。大賞に選ばれたデザインは、株式会社イムラ封筒との開発により製品化が予定されています。



学生にパンを手渡す様子

本学では、コロナ禍で不安を抱える学生の学業を継続する環境や意欲を支えることを目的として、食料品支援プロジェクト「Hands to Hands」を2020年度から実施しています。卒業生、保護者、教職員、学生、大学生協等から食料品を寄贈いただき、これまでに多くの学生が利用しています。4回目となる活動が11月1日から各キャンパスで行われ、数島製パン株式会社のご支援により、Pascoブランドのパン配布も行われました。



「東洋大学 × BLUE SEED PROJECT」 株式会社シードと共同でSDGs活動を推進

NEWS 05

2021年4月～7月、本学とコンタクトレンズの製造販売を行う株式会社シードは、SDGsへの取り組みとして使用済みプリスター (コンタクトレンズのプラスチックケース) の回収を行いました。海洋汚染の原因にもなっている廃プラスチックは世界的に極めて大きな問題であり、現在プラスチック削減へのさまざまな取り組みが広がっています。

今回の活動は、社会学部社会福祉学科における、社会福祉学総合演習のフィールドワークの一環として行われ、学生が主体となり白山キャンパス内でプリスターを回収。回収したプリスターは株式会社シードが行っている「BLUE SEED PROJECT」にて物流パレット (荷物を載せるための荷役台) に再製品化されます。

学生たちはプロジェクトの主旨や海洋ごみ問題の現状、プリスター回収の状況等をSNS等で発信するなど積極的に活動。回収したプリスターは約2週間で合計1,713個となりました。この活動を通して「プラスチックを使わない生活は難しいため、リサイクルなど工夫していきたい」といった環境意識の高まりや「自分に足りない部分や強みを見つけることができた」など自己の成長に関する声が集まりました。また、活動後には、福岡県立軟手高等学校の生徒が「総合的な探究の時間」の調べ学習の中で、活動に取り組んだ学生とオンラインで意見交換をしました。



学内で回収されたコンタクトレンズのプリスター



株式会社シード本社前にて回収したプリスターを持参した学生たち

INFORMATION

白山キャンパス 就職・キャリア支援室で 就職活動用「個室防音ブース」の利用を開始しました。

白山キャンパス6号館1階 就職・キャリア支援室では、2021年10月20日より就職活動でのオンライン面接やグループディスカッション、インターンシップなどのオンラインで行われる就職活動イベントへの参加を目的とした「個室防音ブース」を2台設置し、貸し出しを始めました。

住まいの環境によりオンライン面接中に雑音が入る、集中することが難しいといった学生を支援するため、面接に必要な静穏性と機密性を備え、ブース内は換気、照明、遮音性を十分に確保し、周りを気にせずに発言することも可能です。利用した学生からは「授業の合間に大事なオンライン面接があったので集中できる環境が整っていたよかった」などといった声が届いています。事前予約制で、全学年・全キャンパスの学生が利用できます。

利用方法

事前予約制 (ToyoNet-Gより予約)

※予約方法・詳細は、ToyoNet-ACEの各コースでご確認ください。

利用時間

当面の間、1人あたり1日2枠を利用上限とします。

ブースA	ブースB
10:20 ~ 11:40	10:20 ~ 12:10
11:50 ~ 13:10	12:20 ~ 13:40
13:20 ~ 14:40	13:50 ~ 15:10
14:50 ~ 16:10	15:20 ~ 16:40
16:20 ~ 17:40	16:50 ~ 18:50
17:50 ~ 18:50	

※利用時間枠は変更となる場合があります。

注意点

パソコンは各自持参してください。(貸出も可)
その他、注意点はToyoNet-ACEでご確認ください。

※利用可能日、予約方法は変更となる場合があります。

